

# 学習塾と連携した 学外適応指導教室の開設

～不登校の子どもたちの多様な居場所づくり～

## はじめに

文部科学省が実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、令和3年度の全国の小中学校の不登校児童生徒数は、約24万5千人となり、9年連続の増加となりました。甲斐市においても、不登校児童生徒数は増加傾向となっており、不登校対策は最重要課題であります。

本市の上記の調査において、不登校の要因を問う質問があります。その結果に着目してみると「いじめを除く友人関係をめぐる問題」は10.8%、「学業の不振」及び「入学、転編入学、進級時の不適応」はともに4.8%、「親子の関わり方」は5.4%、「生活リズムの乱れ、遊び、非行」は12.0%などとなっています。その中で最も高い割合となっている要因が「無気力や不安」の52.7%となっています。このことから多岐にわたっている要因への対応や、「無気力や不安」に隠れている背景をアセスメントしていくことが、これからの不登校対策に必要であると考えます。

今回は、本市が取り組む不登校児童生徒への支援対策のうち、学習塾と連携した学外適応指導教室の取組について紹介します。

## 1. 甲斐市の適応指導教室について

本市の適応指導教室は「オークルーム」という名前が付けられています。オーク(Oak)とは樺(ナラ)の木のこと、樺の木のように大きく根を張り、高く伸びてほしいという願いが込められています。



オークルームパンフレット表紙

### (1) オークルームとは

オークルームは、市内に在住する小学校5,6年生と中学生のうち、心理的・情緒的な理由によりなかなか学校に登校できない状態にある児童・生徒の学校生活への復帰や社会的自立を支援するための教室です。

学校以外に拠点(居場所)を作り、学校の先生と連携をしながら、オークルームでの活動が登校への足がかりや社会的自立につながるように考えています。

#### ① オークルームの概要

オークルームは、市内に2教室あります。住んでいる地域や子どもの状況などを確認し、見学や体験を実施して

教室を決定しています。

通級できる時間は、月曜日から金曜日までの8時30分から12時30分までとなります。一つの教室は地域の公民館を借用しているため、月曜日がお休みとなっています。閉級日は在籍している学校に準じています。

様々な子どもがいるため、登級する時間はまちまちです。11時頃に登級し20分間だけ利用する子もいれば、8時30分に登級し半日利用する子もいます。さらには、午前中はオークルームへ登級し、給食から学校へ登校する子も、また教科の内容に自信がない時にだけ登級し、個別指導で自信を持てるようになり学校へ登校する子もいます。まさに子ども一人ひとりに合った通い方、使い方ができる環境となっています。

基本的な活動内容は、子どもがその日やること（やりたいこと）を決めて、それを指導員が支援していく形となります。学習指導はもちろん、受験対策や一人一台端末を活用した学習、オンラインで学校の授業へ参加している子もいます。また、粘土や折り紙、工作、絵画、そして卓球やバドミントンなどの活動や調理実習や校外活動、レクレーションなども行っています。

指導体制は統括支援員が1名と指導員が5名となっています。統括支援員は令和3年度から配置し、オークルームと学校や、そして保護者をつなぐ重要な役割を果たしています。その仕事内容は多岐にわたります。例えば、年度初めに各学校を回り、児童生徒の情報交換や適応指導教室の周知等を行ったり、見学・体験の付き添いや説明、さらには保護者との相談業務、児童生徒の指導や活動報告、SSW（スクールソーシャルワーカー）や医療施設などの外部機関との窓口になったりもしています。

指導員は、各教室に1名配置し児童生徒の指導、相談等に当たっています。

## ② オークルームの現状

不登校児童生徒数の増加に伴い、オークルーム入級を希望する児童生徒の数も増加しています。また、不登校の低年齢化の影響は、オークルーム希望者にも変化を与えています。最近では、小学校中学年の子どもを持つ保護者の方から問い合わせを多くいただき、体験入級という形で対応しています。

## オークルーム通級者数（R1～R5.7月末）

	小学校		中学校			合計	通級率
	中学年	高学年	1年生	2年生	3年生		
R1	0	0	2	1	2	5人	5.38%
R2	0	0	0	4	2	6人	5.56%
R3	0	3	4	3	6	16人	9.88%
R4	2	6	1	7	5	21人	10.99%
R5.7月末	1	6	3	0	10	20人	18.02%

## ③ オークルームの課題

オークルームの課題としては、通級者の増加に伴う施設や人的配置等のハード面と、多様な理由から学校へ足が向かなくなった子どもたちへの支援等のソフト面の両面が考えられます。

ハード面では、通級者の増加から場所の確保が難しい点があります。現在は、庁舎や公民館の一室をお借りしていますが、正直現在のペースで通級者が増えていった場合は、全員を受け入れることが厳しくなります。それに伴いその子どもたちを支援する指導者も足りない状況になることは容易に想像できます。また、公民館をお借りしている分、どうしても月曜日をお休みにしなくてはならないことも課題です。

ソフト面では、足が向かなくなった原因も多岐にわたるため、子ども一人ひとりに応じた対応の難しさは以前からありました。しかし、それに加え最近では通級者の増加により、オークルーム内に新たな集団が形成され、その集団になじむことができない子どもが新たに生まれてきたことも課題となっています。また中学3年生は受験、進路を考え気持ち的にも不安定になる子どもや、学習に対して強い気持ちを持った子どもも増えてきており、学習支援と合わせて心のケアの充実も課題と言えます。

## 2. 学外適応指導教室

令和4年3月、甲斐市と学習塾とで、不登校の児童生徒の学習支援や居場所づくりに関する協定を結びました。これにより、同年4月より1教室を開設しました。毎週月曜日の2時間、塾の講師が塾の教室を開放し、学習支援

と進路相談等に対応していただけるようになりました。これにより、同地区の公民館を利用していたオークルームの月曜休講の補填につながりました。また、令和5年度より、さらに別の地区に1教室増やし毎週水曜日の2時間、支援ができる体制を整えました。この教室は、もともとオークルームがない地域だったこともあり、その地域の学校においては、近くに、不登校児童生徒のための新たな居場所ができたことになりました。

## オークルーム、学外適応指導教室の場所等について

オークルーム			
教室	地域・場所	開級曜日	時間
①	A地区(庁舎内)	月曜から金曜	8:30～12:30
②	B地区(公民館内)	火曜から金曜	8:30～12:30
学外適応指導教室			
③	B地区(塾内)	月曜日	13:30～15:30
④	C地区(塾内)	水曜日	13:30～15:30

### (1) 協定を結んだ学習塾について

協定を結んだ学習塾は、県内最大の規模で、幼児クラスから大学受験まで幅広く学習支援をしています。さらに全体指導から個別指導、英語指導やメタバースなど様々な学び方があり、一人ひとりに合わせた多彩な学びを提供しているのが特徴です。

「誰ひとり取り残さない」「一人ひとりの未来を大切に」を理念に掲げ、不登校や引きこもりの子どもへのサポートにも力を入れています。

### (2) 学外適応指導教室について

#### ① 運用開始にあたって

令和4年4月よりスタートした学外適応指導教室でしたが、当初、通級・希望する児童生徒はいませんでした。(同年6、7月の段階で数名の体験・通級者でした。)

転機が訪れたのは、夏季休業前でした。通常オークルームは学校の休業日に合わせての開設となっていましたので、夏季休業中は開設していません。しかし、オークルーム通級者の保護者からは、せっかく生活リズムが整い、定期的に通級できていた子どもたちが長期休みでそのリズムが再び崩れてしまうことへの懸念の声がありました。

また、受験生の保護者からは、学校のように学習会があり、少しでも勉強を教えてもらえる機会があればとの声もありました。

そこで、5日間、夏季休業中に学外適応指導教室を開設しました。するとオークルーム通級者の多くが興味を示し、利用するとの声が上がりました。最終的に、夏季休業中に利用した子どもは数名と決して多くはありませんでしたが、統括支援員と学外適応指導教室の指導員との間でしっかりと情報交換を行い、丁寧で子ども一人ひとりに寄り添った支援がなされました。

また、学外適応指導教室は、学習塾として受験対策のノウハウや受験の情報を多量に持っているためその強みが、受験を目前にした中学3年生の求めるものと合致し、その後の通級者定着へとつながっていったと考えられます。

#### ② 現在の状況

令和5年度になり、前年度から設置のあった教室については、中学3年生の希望者が多いこともあり、4月から活発に利用されています。新設された1教室については、昨年度と同様に、周知の徹底、夏季休業の利用を通じて、不登校児童生徒にとっての一つの居場所として、選択肢を増やしていけたらと考えています。ちなみに令和5年度、夏季休業中の学外適応指導教室の利用者数は、両教室でのべ10人を超える予定となっています。

#### R5 学外適応指導教室 各月の利用状況

	4月	5月	6月	7月
B地区教室	1人	2人	3人	3人
C地区教室	0人	0人	1人	2人

派遣される講師の人選にも配慮していただき、特別支援学校教諭の免許を持っている方や、特性を持っている子どもでも話しやすい女性を配置してくださっています。また、夏季休業中の講師は普段とは別の講師となっておりますが、通級する児童生徒についてケース会議を開き、一人ひとりの児童生徒にあった支援を心がけてくれています。

通級する児童生徒の情報交換についても、日誌や電話連絡、統括支援員との対面による報告等の方法を使い、密に行っています。これらの情報をもとに、学外適応指導教室内での支援はもちろん、オークルームや学校での支援にもつなげられるようにしています。



写真1 夏期休業中の学外適応指導教室の様子

## おわりに

令和4年度に学外適応指導教室を設置し、今年度で2年目となりました。まだまだ不登校の子どもたちの居場所としてはスタートしたばかりです。しかし、困っている子どもたち一人ひとりの未来を大切に、誰ひとり取り残さないためにも、より多くの外部機関と連携することで、甲斐市の子どもたちのひとつの居場所として確立していきたいと思えます。